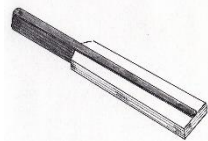


自由民権を叫ぼう 湘南社の活動

— 明治時代 —



「人間は生まれながらにして自由で平等だ」

「みんなが、政治に参加する権利だつて持っているんだ」

明治十四年（一八八一）八月、大磯にある劇場は、一〇〇〇名ほどの人で埋めつくされました。前方の舞台の上では、入れ替わり立ち替わりして、弁士べんしが拳こぶしを大きく振りあげて、周りの人々に訴えていました。

「国会をつくるのはもちろんだが、それだけではだめだ、憲法けんぽうをつくらなければ…」

「憲法があつてはじめて近代国家と言えるのである。欧米列強おうまいれつじやうに我が国を認めさせるには、憲法が必要なのだ」

国会開設の請願書せいがんしょの署名を集めていく中で、多くの人々が、政治や自分たちの暮らしについて考えるようになりました。政治を一部の人々に任せていては、自分たちの権利が狭められてしまうかもしれません。

「だからこそ、政治について、国のあり方や世界の情勢について、私たちはもつと学ばねばならないのです」

全国各地でこうした自由民権運動じゆうみんけんが広がり、多くの学習結社けっしや（または政治結社）が設立されました。

この日、大磯で開かれたのは、大住・洵綾郡おおすみ ゆるぎ（現平塚市）、伊勢原市、秦野市、大磯町、

二宮町）を中心に学習討論活動をする湘南社の発会式でした。

国会開設運動で、駆けずり回った福井直吉も会員となって、その設立に重要な役割を果たしました。

湘南社は、一五〇人ほどの会員がいて、事務局は大磯にありました。金目や伊勢原にも支社が置かれ、講学会という学習会をつくりました。金目では宮田寅治、猪俣道之輔、森鏢三郎らが中心となって活動しました。彼らはともに、大きな農家の出身で、南金目の小林晋齋の私塾である郁文堂で学んだ人たちでした。

宮田は当時、南金目村の戸長で、のちに県会議員になります。猪俣と森は実の兄弟です。弟の道之輔は幼少のころ猪俣家の養子に入り、地元の学校の教員になりました。このころは教育関係の役職を受けていて、のちに県会議員、平塚町長になっています。

明治十六年（一八八三）一月、金目ではじめて政談演説会が、光明寺の観音堂で開か

れました。自由党の植木枝盛うえきえもりを招いたこともあり、聴衆は四〇〇人を超えたといひます。

「国を平和に治めることを望むのであれば、主権は人民になければならない」

猪俣も演壇えんだんに立つて訴えます。

「大統領や国王を置くのは、主権者の国民が命じたものであつて、これを制御するために、憲法があるのである」

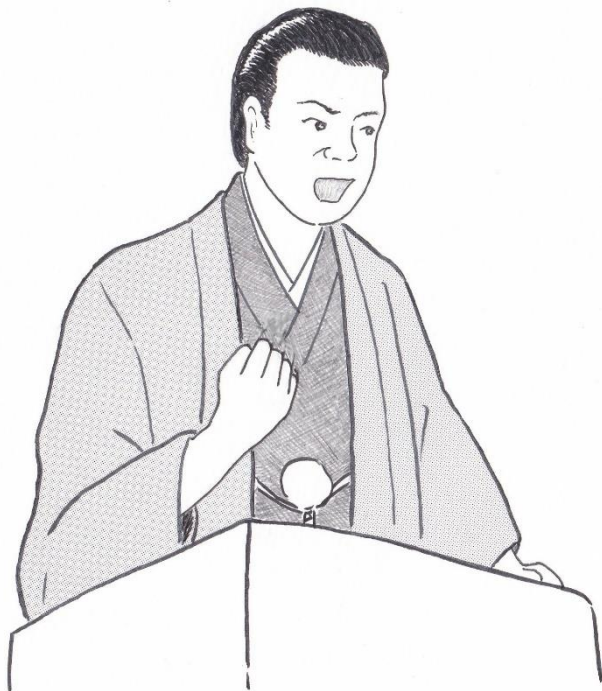
宮田も聴衆に自分の考えを述べま

す。主権在民しゅけんざいみんや三権分立さんけんぶんりつなどが訴え

られました。今でこそ当たり前になり

ましたが、このころは進んだ考え方で

した。



それから六年が過ぎた明治二十二年（一八八九）二月十一日、同じ金目観音堂に多くの人々が集まっていました。正面の入り口には、日の丸の旗が交差し、入口中央には「祝憲法発布」と大書された大札が掲げられています。この日、大日本帝国憲法が発布され、その式典が開かれたのでした。明治天皇の御真影（肖像）を拝み、君が代を斉唱します。そのあと、猪俣と森が演説を行いました。その後、お酒がふるまわれ、みんなで祝杯を挙げました。

こののち、日本は近代国家の道を行っていくことになるのです。

作・画／平塚てづくり紙芝居の会 たもん丸